

被爆証言聞く会「守る」

広島市の繁華街にあるバーで、被爆者の証言を聞く会を続けるシンガーがいる。地元を拠点に活動するシンガー・ソングライターHIPPIY（ヒッピー）本名・石川寛樹（さん）(37)。「証言できる被爆者が少なくなってきた。生の声を聞けるかぎり、思いを受け継ぎ伝えたい」。被爆者の高齢化が進む中、ヒロシマと向き合う決意を新たにしている。



広島市のシンガー HIPPIYさん(37)

早世の友の遺志 受け継ぐ

被爆者の証言の会が開かれるバーで、ヒロシマと向き合う決意を語るHIPPIYさん＝広島市



証言の会は2006年、同市繁華街でバーを営んでいた富恵洋次郎さんが始めた。バーの客に原爆について聞かれ、答えられなかったことがきっかけ。広島に原爆が落とされた8月6日にちなみ、毎月6日の夜に開くようになった。

HIPPYさんが、富恵さんと出会ったのは10年ほど前。思ったことを口にする飾らない人柄に引かれた。バーの常連客になり、証言の会にも顔を出すようになった。



富恵洋次郎さん

被爆者の壮絶な体験を聞き、「本当にそんなひどいことがあったのか」と衝撃を受けた。多くの若者が犠牲になったこと、生き残った被爆者への差別…。体を震わせ、重い口を開

く被爆者の姿を見て、「自分ができることはないか」と考えるようになった。市が3年かけて行う被爆体験の伝承者養成講座に、16年から参加していた矢先、富恵さんが末期の肺がんに侵されていることが発覚した。

「HIPPIYさんの爆の悲しみの上に、今は危機感を抱く。4年前に亡くなった祖父が、実は被爆者だったことを最近知った。陽気で話し好きの性格だったが、被爆のことは、父でさえ知らなかったという。それほど、思い出してもないことなのか…。被爆者の証言の重みをおらためて感じている。証言の会は、8月で153回目になる。被爆地の今を伝える。」

昨年6月末、入院中の富恵さんに呼ばれた。苦しそうな声で、途切れ途切れに語ったのは証言の会のこと。「ヒッピー、復帰するまで、オレの代わりになってくれないか」。富恵さんはそのわずか数日後、37歳の若さで亡くなった。HIPPIYさんは、会を引き継ぐ覚悟を決めた。

それから1年。被爆者の平均年齢は82歳を超え、「夜の証言は無理じゃ」との声が聞かれるようになった。「話が聞けなくなるカウントダウンが始まってい

1945年8月、広島と長崎を襲った原爆は一瞬で街を焼き尽くし、多くの命を奪った。核の恐ろしさ、平和の大切さをどう受け継ぐか。模索を続ける被爆地の今を伝える。